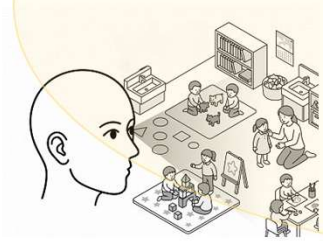
【 働くスキル 】基本の適性、スキル。「働く専門家」として（概要）

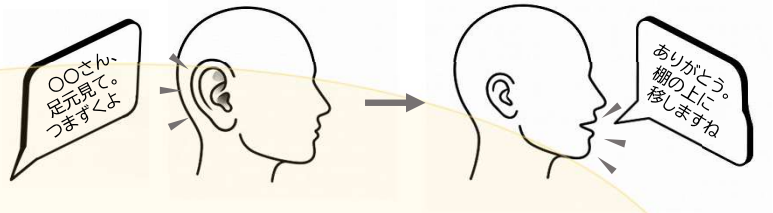
・聞いた言葉を言葉として理解でき、何を言われたかがわかる（言った人の意図、感情、論理、文脈等以前に）。

・発達段階の違いと個人差がある子どもたちの発語を、集団の中、それぞれの音（声）として聞き取れる。

・くぐもった泣き声、小さな「いたい」などの声を拾い、聞き取れる。



ある程度の距離まで、（視力として）見、観察できる。



個の適性、スキル

未就学児施設で優先順位が高いのは、「話す」「聞く」。

「読む」「書く」は、そのあと。

事実や情報を話し言葉で、相手が理解できるように伝えることができる。

声に出して伝える ↑ 「なにか変です」「危ないと思います」

子どもの様子、環境などが「なにかおかしい」「危ない気がする」と気づける（問題解決の知識やスキル以前に「おかしい」と気づく五感と直感）。

★ 上は、米国O*NETサイトのChild-care Workers（チャイルドケア・ワーカー、39-9011.00）にある、Abilities（適性）の上位項目。
O*NETでは、約900の職業、職種としては55,000以上について、要する適性、知識、スキル等を優先順位ごとに列挙している。組織側にも求職側にも役立つ。
https://www.onetonline.org/
簡易の日本語版（job tag）もあるが、詳細さにおいて圧倒的に劣る。

一人ひとりのスキルが、日々の保育、質の維持・向上につながる

立場や年齢、経験に縛られずに「聞く」「言う」をできなければ、組織内外の信頼関係はつくることはできず、安全も確保できず、保育の質も維持・向上できないと理解する。

一方、保育は、１人でする仕事ではないから…
【日々の言動、行動で不可欠となる規範】

「『子どもたちを、より良く育てる』という共通目標を持った職場で働く専門職」として、自分自身、職員全員を位置づける。

聞く時の表情、動作、言い方
話す時の表情、動作、言い方、そして…

妄想しない。裏で言わない、裏で聞かない

妄想と陰口は組織を壊す ⇐

▶「わかった」と思っても、「こういうことですか」「私は～と受け取ったのですが」と確認する。

▶わからなかった時、聞こえなかった時は、「もう一度」「詳しく」と頼む。

▶一度の説明で100％通じることなどないのだから、お互い、確認や説明のし直しをいとわない。

▶「私は」「僕は」と、自分の意見を言う。

▶一般論を装って圧力をかける言い方をしない（例：「みんなが～と言っている」「～のはず」）。

こうした意識、行動を個々が身につけ、組織に根づかせるには？
→ 続く

製作：掛札逸美、青柳淳子。イラストはGeminiによる。未就学児施設の職員が保育に用いる以外の利用は一切お断りします。このシートをコピーする時は、必ずこの文言もコピーしてください。